



プロジェクト名称

アジア学生とのサステナブル都市協働提案5

活動状況報告 & 活動写真など【活動期間:2011年10月1日～12月31日】

1. ミーティング & 勉強会

→毎週火曜日と土曜日に集まり活動

●調査方針

昨年度の活動より**現在タイで必要とされる廃棄物処理の形態は分散型処理(オンサイト)**であり、日本の好事例とタイにおけるリサイクルバンク(学校を中心とした資源回収活動)を比較・調査してきた。
また、9月にタイ渡航・ワークショップを予定していたので、この期間では**プレゼンテーションの練習を重視して行った。**

1年生はSD研究会(9月・12月)、2年生ISOシンポジウム、4年生は英語で盛・松下合同海外研究会にてプレゼンテーションをした。



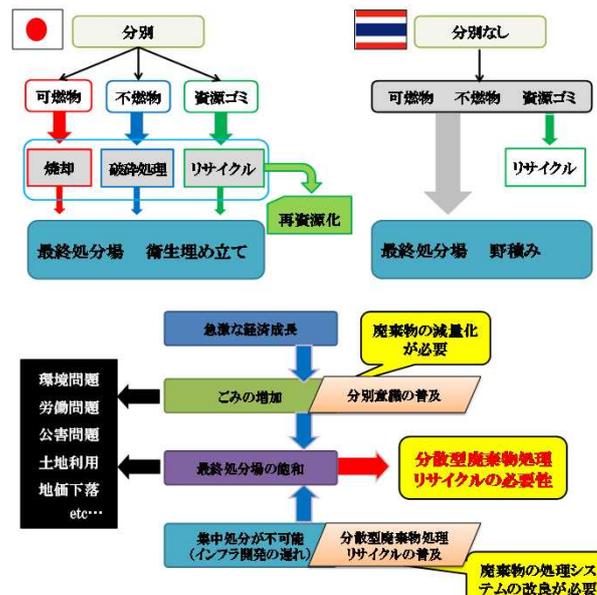
2. ISOシンポジウムでの発表

●タイにおける廃棄物問題の構造

環境強化週間最終日の11月19日に行われたISOシンポジウムに参加した。ここでは環境系学生団体や環境マネジメント演習履修者を中心に**バンコクの廃棄物問題の構造**について発表した。バンコクにおける急激な経済最長と、廃棄物処理技術の不整備を背景に、**急増した廃棄物に対して最終処分場の逼迫が問題**となっている。これに伴い環境、労働、土地利用に関する問題が発生している。

これらの現状を踏まえ、タイの地域の特性に応じた日本の技術・システムをどのようにして適応させるか検討していく。

廃棄物処理の二国間比較





3. 盛・松下研究室合同 海外研究会

ハワイ大学に留学されていた盛先生と合同で研究会を行った。盛先生からはハワイにおける原住民族と欧米人種との差別問題を発表して頂いた。本研究会では**アジア工科大学におけるワークショップを想定し、英語での発表・質疑応答を行った。**



●発表内容

AITでの発表内容である、日本の分散型廃棄物の成功事例である**集団回収**について、そのシステム、タイの分散型廃棄物との比較を行った。

また、**昨年10月に起こったタイでの洪水と、3月の東日本大震災における災害廃棄物の現状と処理方法の比較を行った。**

●まとめ

昨年のワークショップの経験や、留学経験などから、発表に問題は無いが**質疑応答に不安が残った。**専門知識と共に英語力の向上に努める。

Back ground , Purpose, schedule.

Back ground

- Compare to **rapid economic growth**, the development of **infrastructure is delayed** in south-eastern Asian area.
- The information exchange between SE Asian countries and Japan.

Project purpose

- Thinking about the sustainable city development with students from SE Asian countries.
- Finally, we will make **"The sustainable report"**, then distribute it to government officers and students.



今後の活動計画、目標、意気込みなど

タイ渡航・アジア工科大学でのワークショップにむけて

昨年9月にタイ渡航を予定していたが洪水によりアジア工科大学も被害を受けたため、**渡航は3月に延期した。**

この際改めて3月の東日本大震災でアジア工科大学やタイ国民から寄せられたメッセージや援助のことが思い出された。

今後さらに連携を強化し、また災害廃棄物に関する情報交換も盛り込み、**ワークショップの準備を進めていく。**

日本とタイにおける災害廃棄物処理の比較



比較項目	日本	タイ
分別の困難性	原形をとどめない廃棄物形態	比較的原形をとどめており分別が容易
仮置きスペース	三陸の地理的制約	バンコク郊外に空き地あり
塩害・有害廃棄物	塩害あり。焼却時に有害。	塩害なし。気候条件による腐敗。
安全・衛生処理	浸出水処理、火災防止等	伝染病の蔓延

災害廃棄物に関する廃棄物処理技術・マネジメントに関する日本とタイの間で情報交換が必要